

地方創生交付金を活用した事業の報告及び評価 (令和4年度実績)

No	① 交付対象事業の名称	② 事業概要	③ 総事業費 (内、交付金額)	④ 本事業における重要業績評価指標 (KPI)				⑤ 令和4年度終了時の実績値					⑥ 実績を踏まえた事業の今後について		⑦ 外部有識者からの評価・意見 (事業の方向性、KPI等)				
				指標		目標値	単位	目標年月	種別	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	事業効果	事業効果の理由	今後の方向性	今後の方向性の理由	事業評価	意見
1	丸岡バスターミナル周辺整備事業 地方創生拠点整備交付金	丸岡バスターミナルについて、交流スペース及び賑わい広場を整備することにより人が滞留できる拠点をつくるとともに交流スペース内の店舗誘致、賑わい広場での産直販売などを実施することでまちの活性化を図る。またこの施設を丸岡城までのまち歩き拠点とすることで、丸岡城への導線周辺にある空き家・空き店舗の利活用を促し、観光客に対する魅力向上及び賑わい創出を図る。	413,640 (117,335) R1	指標①	交流施設来館者数	67,800	人	R6.3	目標値	51,000	56,100	61,700	67,800	地方創生に効果があった	指定管理者主催のイベントだけでなく他団体によるイベントの開催や、フォトスポットやイルミネーション等の整備、また定期的な施設の利用が行われたことで、来館者数の目標値を達成した。賑わいづくりや交流拠点としての役割は十分に果たしていると考ええる。	事業の継続	これまで同様、市民のニーズにあったイベントの開催や展示スペース等の施設を有効活用し、交流拠点として定着するよう市民が集う仕掛けを行い、今以上の交流やまち歩きの拠点となるよう努めたい。	地方創生に効果があった	イベント時には集客できているように思われる。一方イベント以外での賑わいづくりには伸びしろがあり展示スペースの認知度を高めることや、丸岡城までの導線づくりなどの推進が求められる。
				指標②	賑わい広場イベント開催数	40	回	R6.3	目標値	12	18	27	40						
				指標③	賑わい広場出店料	194	万円	R6.3	目標値	24	60	114	194						
2	農産物の情報発信ターミナル「いねす」整備事業 地方創生拠点整備交付金	坂井地域交流センター「いねす」を改修することで、市全域の農産物産物を扱う商業活動の場を整えるとともに、ホール等を活用した市民の交流を促進し、周辺エリアの商業的価値を向上させることを目的とする。	385,632 (183,254) R1	指標①	年間売上額(農産物直売所、施設利用料等)	157,646	千円	R6.3	目標値	137,396	144,146	150,896	157,646	地方創生に効果があった	年間売上額については、リニューアルを契機に陳列方法の変更等を行い売上高が伸びた。令和4年度は新型コロナウイルスの接種会場としての利用回数が減り、施設利用者数は令和3年度と比べれば減少しているものの、売上高が伸びていることから事業効果があったと判断される。	事業の継続	農産物直売所の年間売上額については、今後も創意工夫を凝らすことで、さらに効果が期待できると考えられる。施設利用者数、イベント開催数については新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこと外からの機会拡大が期待され、計画的に事業の推進が可能になると期待されるため。	地方創生に効果があった	農産物直売所等の売上額は想定よりも大きく伸びている。今後はワクチン接種会場としての利用がなくなったことの影響があると思われるが、指定管理者主導のイベントを推進するなど、来場者の満足度を高くすることで、来場者数も増えることを期待する。
				指標②	施設利用者数(農産物直売所、交流ホール等)	170,035	人	R6.3	目標値	154,285	159,535	164,785	170,035						
				指標③	イベント開催数(自主事業、市又はまちづくり協議会主催等)	6	回	R6.3	目標値	2	4	5	6						
3	里山で資源を生かした人を育む拠点整備事業 地方創生拠点整備交付金	丸岡温泉たけくらべについて、客室等の改修や多目的ホールの共有スペース化により、宿泊施設としてだけでなく地域交流の場としての利用等を含め、竹田地区全体への訪問者、宿泊者、滞在時間を増やし賑わいを創出する。	350,440 (147,950) R3	指標①	年間日帰り施設利用者数	19,000	人	R8.3	目標値	-	-	17,000	18,000	地方創生に効果があった	新型コロナウイルス感染症による旅行者減少の影響を受けながらも、竹田地区来訪者の多くに宿泊される施設となった。周辺の観光施設等と連携し、地区全体での観光客数増加に寄与した。	事業の継続	竹田地区の磨き上げを図る拠点として、北陸新幹線延伸を契機にさらに多くの観光客に利用され、学生等の学びを支える施設となるよう事業を継続していく。地区全体で発展していくため、施設同士の連携強化を図る。	地方創生に効果があった	KPIについては目標数値を上回っているものもあり、一定の成果は出ていると考える。北陸新幹線開業にあわせ、客層の変動も考えられ、それに合わせた事業を展開させていくことで利用者の拡大・定着を図ることも重要と考える。環境に配慮した湯沸かしなど教育面での来訪者獲得なども戦略的に進めていけると良いだろう。
				指標②	年間宿泊者数	7,000	人	R8.3	目標値	-	-	6,000	6,500						
				指標③	年間竹田地区来訪者数	243,000	人	R8.3	目標値	-	-	226,500	232,500						
4	水がつなげる山・里・町・海の歴史文化発信拠点整備事業 地方創生拠点整備交付金	みくに龍翔館について、既存の常設展示を坂井市の歴史文化をより分かりやすく紹介するものに一新し、また特別展示室も整備し国指定文化財も展示可能とする。シビックプライドの醸成に努めるとともに、地域の歴史・文化遺産の情報発信や保存活用を行う人材育成を図る。	793,870 (173,563) R3	指標①	来館者数(館外活動参加者等を含む)	30,000	人	R8.3	目標値	-	-	-	20,000	事業の継続	坂井市全体の歴史や文化財の保存・活用の拠点となる博物館施設として十分に役割を果たしていくため、新たな展示の内容について検討を重ねながら、施設の全面改修工事を行った。また、展示内容も一新し、トリック手法によるユニークな見せ方をはじめ新しい展示方法を多彩に取り入れ、坂井市全域を対象にした歴史や文化を分かりやすく紹介している。令和5年6月にリニューアルオープンし、教育普及事業についても計画・実施していく。	事業の継続	リニューアルに伴い、内容が一新されたこともあり、市内外への周知が大事である。文化財を学び、より坂井市への興味を深めるためにも、館内案内人の配置等細やかにできると良いと考える。		
				指標②	年間の学習利用校数	24	校	R8.3	目標値	-	-	-	15						
				指標③	館が主催・協同する内外での年間事業数(企画展・特別展、講演会、イベント、学習活動支援等)	15	回	R8.3	目標値	-	-	-	11						

凡例：事業効果

- 地方創生に非常に効果的であった 例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- 地方創生に相当程度効果があった 例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- 地方創生に効果があった 例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- 地方創生に効果がなかった 例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合
- 事業の継続 例：計画通りに事業を継続する
- 事業の発展 例：事業が効果的であったことから取り組みの追加等さらに発展させる
- 事業の改善 例：事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う(または行った)
- 事業の終了 例：当初の予定通り事業を終了する

地方創生交付金を活用した事業の報告及び評価 (令和4年度実績)

No	① 交付対象事業の名称	② 事業概要	③ 総事業費 (内、交付金額)	④ 本事業における重要業績評価指標 (KPI)				⑤ 令和4年度終了時の実績値						⑥ 実績を踏まえた事業の今後について		⑦ 外部有識者からの評価・意見 (事業の方向性、KPI等)		
				指標	目標値	単位	目標年月	種別	R4年度	R5年度	R6年度	事業効果	事業効果の理由	今後の方向性	今後の方向性の理由	事業評価	意見	
									目	度	度							
1	高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト 地方創生推進交付金	目まぐるしく変化する社会情勢を生き延びてゆくこれからの子どもたちには、自分たちの力で未来を切り拓いていこうとする強い意志が求められている。人口減少、過疎化、高齢化といった課題が日常にあふれる地方という先進地で、立場や世代を超えた多様な人々と過ごすことで、地域と高校の協働による魅力ある教育環境づくりに取り組む。	7,800 (3,900) R4～R6 (見込み)	指標①	地域外からの入学生徒数	11	人	R7.3	目標値	9	10	11	地方創生に非常に効果的であった	探究活動などを通じて地元の住民と触れ合い、地域の歴史や文化を学ぶことでシビックプライドの醸成に一定の効果があった。 高校の魅力向上が図られ、地域外からの入学者数目標を達成できた。また、卒業後も地元や高校とつながり続ける効果も見られた。	事業の継続	探究活動を中心に積極的に地域と関わる機会を作り、地域への愛着と理解を深める。また、地域外へも高校の活動や魅力を広報して、入学者または関心を持つ人を増やしていく。	地方創生に非常に効果的であった	目標値を上回り、また活発な探究活動が確認でき、今後も地域コーディネータを核とした魅力ある活動を継続されたい。県外学生を呼び込むため、高校での活動だけでなく、地域商店街による県外学生への支援など、地域の温かさなども周知することにより相乗的な効果を期待したい。
									実績値	9								
				指標②	卒業後も地元に関わった大学生・社会人の数	13	人	R7.3	目標値	9	11	13						
									実績値	13								
				指標③	地域外からの高校への応援者数	11	人	R7.3	目標値	9	10	11						
									実績値	9								

凡例：事業効果

- 地方創生に非常に効果的であった 例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
- 地方創生に相当程度効果があった 例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
- 地方創生に効果があった 例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
- 地方創生に効果がなかった 例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合
- 事業の継続 例：計画通りに事業を継続する
- 事業の発展 例：事業が効果的であったことから取り組みの追加等さらに発展させる
- 事業の改善 例：事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う（または行った）
- 事業の終了 例：当初の予定通り事業を終了する